

令和 4年 9月

福岡晃平 学位論文審査要旨

主 査 西 村 元 延
副主査 永 島 英 樹
同 大 槻 明 広

主論文

Preventing recurrence after surgical repair of pressure injuries in patients with spinal cord injury: Effects of a presurgical and postsurgical wheelchair seating intervention by experts

(脊髄損傷者における褥瘡の術後再発予防：術前術後のシーティング専門家による車椅子調整の効果)

(著者：福岡晃平、陶山淑子、森田真紀、生田健人、金山晴香、梅田竜之介、木村悠花、土中伸樹、藤井香織、八木俊路朗)

令和4年 Journal of Tissue Viability 31巻 552頁～556頁

参考論文

1. 足潰瘍にセラチア菌感染を生じ、治療に難渋した1例

(著者：福岡晃平、中山敏、陶山淑子、八木俊路朗、千酌浩樹)

平成27年 創傷 6巻 167頁～171頁

2. 分層採皮創に対する余剰植皮片移植の効果

(著者：福岡晃平、陶山淑子、森田真紀、八木俊路朗)

令和2年 形成外科 63巻 308頁～313頁

3. Effect of subcutaneous adrenaline/saline/lidocaine injection on split-thickness skin graft donor site wound healing

(アドレナリン、生理食塩水、リドカイン溶液の皮下注射が分層採皮創の創傷治癒に与える影響)

(著者：福岡晃平、八木俊路朗、陶山淑子、貝田亘、森田真紀、久留一郎)

令和3年 Yonago Acta Medica 64巻 107頁～112頁

学 位 論 文 要 旨

Preventing recurrence after surgical repair of pressure injuries in patients with spinal cord injury: Effects of a presurgical and postsurgical wheelchair seating intervention by experts

(脊髄損傷者における褥瘡の術後再発予防：術前術後のシーティング専門家による車椅子調整の効果)

脊髄損傷者の褥瘡は術後再発率が高いことで知られている。その対策として、現在、著者らは術前よりシーティング専門家介入のもと車椅子やクッションの調整をした上で手術を行うことにしている。専門家によるシーティング介入の術後再発予防効果について検討した。

方 法

2005年から2018年の間に殿部領域の褥瘡外科治療を行った19名の脊髄損傷者を対象とした。術後に従来のリハビリテーションのみを行った症例をグループ1 (n=8)、従来のリハビリテーションに加えて専門家によるシーティング調整を行った症例をグループ2 (n=11) とした。主要評価項目を術後3年経過した時点での褥瘡再発の有無とし、術後再発率を2群間で比較した。

結 果

術後再発率はグループ1で75%、グループ2で18%と専門家によるシーティング調整を行った群で有意に再発率が低下していた ($p=0.025$)。再発のオッズ比は13.5であった。

考 察

脊髄損傷者の褥瘡は座位姿勢や除圧不足が要因となることが多い。そのため、治療、再発予防には適切な座位環境の設定と除圧テクニックの獲得が重要である。根治術後はもちろんのこと、術前から車椅子やクッションの調整を行っておくことで術後創部への負担を減らし、術後再発が減少したと考えられる。

結 論

脊髄損傷者の褥瘡外科治療において、術前から専門家によるシーティング調整は術後再発を減らす効果があることが示唆された。